

《研究ノート》

小・中学校道徳教科書にみる友達との関係づくりの諸相

歌川 光一 (現代教育研究所所員 初等教育学科)

1. 問題の所在

本稿の目的は、2017年改訂学習指導要領に基づいた小・中学校道徳教科書に掲載されている友達との関係づくりに関するメッセージの諸相を明らかにすることにある。

日本の子ども・若者の友人関係については、その量の面からの「希薄化」が問題視されることもある一方で、2000年代以降の関連する社会学研究において、質の面では相互に過敏になっており、それに学校教育も荷担している可能性が指摘されている(鈴木2015)。

「友達」は自由で「緩い」(藤野2018)プライベートな人間関係の問題だが、子ども・若者にとって友人関係の実態やイメージに対する学校の影響力が強いのであるとすれば、教育・保育がどの発達段階でどのようにどの程度介入すべきかを再検討し、体系性のあるカリキュラムを構想する必要があると考えられる。

上記の関心に基づき、筆者らは、(保育所・)幼稚園・小学校・中学校の要領や教材に着目し、顕在的カリキュラムとして「友達」「友情」がどのように扱われているかについて検討を重ねてきた(水引・歌川2017、歌川・岡邑2017、岡邑・歌川2018、水引・歌川・濱野2018、歌川2018)。このうち、水引・歌川・濱野(2018)では、小学校第一学年の生活科教科書と道徳の読み物教材の比較から、後者において友達との関係づくりに関するハウツーが掲載されていることを指摘した。本稿ではこの知見を受け、「友達」をめぐる顕在的カリキュラムの構想に向け、2017年改訂学習指導要領に基づいた小・中学校道徳教科書に掲載されている友達との関係づくりに関する直接的メッセージの諸相を明らかにする。

考察の対象とするのは、小・中学校の検定済み道徳教科書を発行する9社(小・中学校共通の発行社として光村図書出版、学研教育みらい、廣済堂あかつき、日本文教出版、東京書籍、教育出版、学校図書。小学校にはついでには光文書院、中学校については日本教科書が加わる)の教科書と付属するノートである(中学校については見本本。以下、教科書・ノートの引用に際しては、「発行社(校種・学年：引用頁)」のように示す)。教科書中で友情の意義が直接的に整理されていたり(廣済あかつきノート小1～中3、以下表)、友情のあり方が例示されている(「絆」(山崎朋子作詞、日本教科書・中1：55)、「先人たちが育んだ友情」(光村・中2：61))場合もあるが、今回は、内容項目「友情、信頼」の読み物資料を除くコラム等の記事における友達との関係づくりのハウツーに着目していく。

表：友情の意義

校種・学年	タイトル	友情の意義
小学校低学年	ともだちとなかよく	<p>べんきょうもあそびも、ともだちがいるともっとがんばれたり、もっとたのしくなったりすることがあります。ともだちをたくさんつくって、なかよくたすけあいましょう。</p> <p>ともだちがいると、つらいこともがんばれたり、ゆう気が出たりすることがあります。ともだちは大切なからものです。ともだちとたすけ合ったり、はげまし合ったりしてなかよくしまししょう。</p>
小学校中学年	友だち(達)とたがいに理解し合って	<p>友だちがいると、楽しいことはいっそう楽しくなり、つらいことや苦しいことも乗り越えられる力がわいてきたりします。友だちは、ただ遊ぶための相手ではなく、はげまし合ったり、助け合ったりしながらたがいに支え合ってせい長していく、大切ななかまなのです。</p> <p>たがいに分かり合い、心をよせ合い、助け合える友だちをたくさんつくりましよう。</p> <p>学校が楽しいのは、「友達に会えるから」と答える小学生がたくさんいます。しかし、ちょっとしたことからけんかをしたり、うまくいかなかったりすることも多いのが友達との関係です。</p> <p>友達のことを、心から理解しようとしていますか。友達は、かけがえのないものです。友達とたがいに分かり合い、心をよせ合い、助け合って、よりよい関係をつくっていきましょう。</p>
小学校高学年	友達とたがいに信頼し、学び合って	<p>仲のよい友達といっしょにいるのはとても楽しいものです。いっぼうで、友達だからこそ、うまくいかなくてなやんだり、不安になったりすることもあります。たがいに相手をみとめ、信頼し、高め合っていく友達関係を築いていきましょう。</p> <p>また、それは異性であっても同じです。男女仲よく協力し、学び合い、支え合いながら、よりよい関係を築いていきましょう。</p> <p>同じ考え方やしゅみの友達と遊んでいると、とても楽しい気持ちになるものです。しかし、単に「遊び仲間」ということではなく、おたがいが相手を認め、尊重しながら、信頼し合い、高め合っていくような友達関係を築いていくことが大切です。</p> <p>それは異性に対しても同じです。男女がたがいに意識するようになって、同じ一人の人間として、たがいのよさを認め合えるような関係を築いていきましょう。</p>
中学校	互いに励まし合い、高め合える友情を育む	<p>仲のよい友達とともに時間を過ごし、さまざまな思い出をつくっていくことは大きな喜びだ。しかし、友人関係は楽しいことばかりではない。ささいなことから感情の行き違いが生じたり、ぶつかり合って気まずくなってしまう……。一番近くにいるからこそ、信頼しているからこそ生じる問題もあるのだ。友情は、私たちの人生を豊かにするかけがえのないものである。いくつもの悩みや葛藤を経験し、ともに乗り越えていくことによって、より強く太いきずなが築かれ、真の友情へと育てっていくものである。</p> <p>同性、異性に関わらず、心から信頼できる友をもち、互いに励まし合い、高め合う友情を育んでいこう。ただの仲良しというだけではない真の友の存在が、あなたの中学校生活をいっそう輝かせ、充実したものにしてくれるだろう。</p> <p>自分が何かにつまずいてしまったり、悩んでいたるときに、そっと力になってくれる友達がいるとうれしいものだ。それは、きっと相手にとっても同じことだろう。</p> <p>一緒にいて楽しいだけが友達ではない。友達との関係に悩んだり、いがみ合ったりすることもある。中学生の年頃になれば、友情のもつさまざまな側面に気づいている人も多だろう。</p> <p>友達は人間関係の中で最も豊かなものと言われるのは、深い信頼に裏づけられ、相手への尊敬と幸せを願う気持ちがそこにあるからだろう。それは異性との関係においてもなんら変わることはない。互いに相手のよさを認め合い、ともに励まし合い、ときには率直に忠告し合って、互いを高め合うことのできる関係を築いていきたい。</p> <p>これまでの自分を振り返り、友達にとって自分はどうの存在であるのかを見つめ、望ましい友情の在り方について考え深めていこう。</p> <p>「友情は成長の遅い植物である」というアメリカ合衆国初代大統領ジョージ・ワシントンの言葉にあるように、真の友情を育むことは簡単ではない。</p> <p>いつもそばにいて楽しく過ごすことだけが友情ではない。友達関係にときには悩み、葛藤を乗り越えることで真の友情は培われていく。</p> <p>信頼できる友達がいるということは、私たちの人生を豊かなものにしてくれる。真の友情は、人生のさまざまな局面で喜びを増幅させてくれるだろうし、悲しみや苦しみを分かち合うこともできるだろう。</p> <p>そうした友情を築いていくために、私たちに共通した課題とはどのようなことなのか、一人一人が考えを深めていくことが大切だ。</p> <p>友情を築くために大切なことは、相手が異性であっても変わらない。互いに一人の人間として尊重し合い、励まし合いながら信頼を深め、よりよい人間関係を築いていこう。</p>

出典) 廣済あかつきノート(小1～中3)より筆者作成。なお小6(22)には「友情は成長の遅い植物である。それが友情という名の花をさかす前に、いくたびかの困難な打撃にたえなければならぬ。(アメリカの政治家 ジョージ・ワシントン)」と添えられている。

2. 友達の作り方、増やし方

小学校低・中学年においては、友達の作り方、増やし方について、言葉遣いや挨拶・会話の仕方が中心に紹介されている。光村図書(小1:127)「三つの「あ」でたくさんともだちをつくろう!—ともだちをたくさんつくる「こつ」—」では、友達づくりのための三つの「あ」(あいさつ、あったかことば、ありがとう)を紹介している。学校図書(小2:49)では「お友だちと、もっと上手にお話

しできる、まほうのことば」が、学校図書（小3：51）「あったか言葉」、学校図書（小4：33）では「まんまる言葉」の紹介が続いている。

学校図書（小1：65）「上手にさそおう、ことわろう」は、表情・態度にも言及している。「おともだちをさそうとき、へんじをするとき、こうすると、じぶんもあいても気持ちがいいね。」として、ポイントとして、「あいてのかおを見よう」「きこえるこえでいおう」「さいごまでいおう」「えがおでいおう」としている。

学級内で迷惑にならないふるまい方や、友達に謝罪すべき時や誘いを断らざるを得ない時のハウツーも紹介されている。

光村図書（小1：51）「こんなこと、してない？」では、「あなたが、いじわるをしたつもりでなくても、まわりに、『いやだな。』『かなしいな。』とおもっているともだちがいるかもしれません。」として、例として「なかよしのともだちのものだけをとってあげる」「すきなともだちだけをれつに連れてあげる」を挙げている。続く光村図書（小2：78）「いやな気持ちかもしれないよ」でも、避けるべき言動として「友だちのしっばいをおもしろがる」「すきな友だちとだけあそぶ」が挙げられている。光村図書（小2：151）「さくせん『ゴリラ』で、友だちとなかよくなるう！—友だちと、もっとなかよくなる『こつ』」では、「自分がしてほしいくないことは、友だちにもしないようにしましょう。」として「さくせん『ゴリラ』（ごめんねの「ゴ」、りゅうの「り」、ラッキーなていあんの「ラ）」を紹介している。学校図書（小1：65）「上手にさそおう、ことわろう」では、「上手なことわりかた」のポイントとして「まず、あやまろう」「ことわりゅうをいおう」「かわりのことをいおう」を挙げ、「あいての気持ちをかながえていえると、ともだちがたくさんできるよ。」と締めくくっている。

3. 友達との関係維持

次に、友達との関係維持のためのスキルについて見てみよう。

光村図書（小3：171）「自分の気持ちをつたえよう！—友だちと、もっとなかよくなる『こつ』」では、「自分の気持ちを、勇気をもってはっきりとつたえる「こつ」として、「言い方」（イライラした気持ちをぶついたり、何を言っているのか分からないような言い方をしたりするのは、やめましょう。）、「表情」（つたえないようによって、表情をくふうしましょう。ときには、しんけんな表情でつたえたほうがいいこともあります。）、「視線」（相手の目を見てつたえることは大事です。でも、それができないときには、ときどき相手の口元を見るなどして、気持ちを楽にしましょう。）、「相手とのきよりやしぐさ」（自分の気持ちがつたわりやすい、きよりやしぐさを考えましょう。）を挙げている。

続けて光村図書では小学校4、5年生でも同様の資料が掲載されているが、小6（203）「おたがいがこちよくなる話し方を身につけよう！」（以下引用）、中1（38-40）「友達とよい関係を築くには」では、自身のタイプを自省するような内容となっている（問い詰めタイプ、攻撃タイプ、傍観者タイプ、被害者タイプ、思いを伝えるタイプ）。

こうげき型 相手の考えを無視、あるいは否定して、自分の考えだけを主張する言い方

言いすぎてしまって後悔したり、相手から反感を買ってなやんだりすることもあります。

非主張型 自分の考えを言うのをためらったりがまんしたりして、流れに任せるような言い方

がまんを続けると、それがいかりに変わってしまうこともあります。

相手を思いやる自己主張型 自分も相手も大切にする言い方

自分の考えを伝え、相手の気持ちも理解しようとすることで、ウィン-ウィンの関係をつくることができます。「ウィン-ウィン」とは、たがいがこちよいという意味です。

(光村図書小6：203)

光村図書(中1：40)では、「よい関係を維持するため」のチェックポイントとして、大きく「相手に対する自分の姿を振り返ってみる」「自分に対して不愉快な態度を取った相手のことを想像してみる」「表現のしかたを考えてみる」を挙げている。囲いのコメントでは「自分の心を開き、相手の気持ちに共感しようと努めることで、良好な人間関係が保たれます。もしトラブルが起きてしまったときには、相手を尊重しつつ、自分の気持ちを説明してみましよう。それでも好転しない場合は、少し距離を置いてみるのも一つの手です。その場を離れて、自分自身を守ることも大切です。」と、距離の置き方のスキルも伝えている。

対人スキルとしての怒りの感情のコントロールをより重視した教材もある。

日本文教(中1：42-43)「怒りの感情と上手につき合おう」では、「普段の生活で、怒りに任せて行動して、失敗してしまったことはありませんか？怒りは人間の自然な感情で、上手につき合えると、もっと生活しやすくなります。」とし、怒りの感情の静め方(刺激を取り除く、心と体の緊張をほぐす、気分転換をする)を挙げている。「怒りの感情を爆発させたりため込んだりすると、自分にも周りにもよくありません。怒りの感情を静めて、自分の気持ちや考えを冷静に伝え、人間関係をスムーズにしていきましょう。」と締めくくられる。続く日本文教(中2：40-41)「自分の考え方を見つめよう」でも、「いらいらしやすい考え方」の例として、「～すべき」「～しなければならない」(「友達なら5分以内に返事をすべき。」のように、自分に対しても他人に対しても自分の考えを押しつける考え方。)、 「完璧主義」(「失敗はぜったいに許されない。」のように、自分の理想に一致させようとする考え方。)、 「白黒思考」(「自分と意見が合う人は見方だが、合わない人は敵だ。」のように、ものごとを極端に分けようとする考え方。)が挙げられ、「考え方を変えるコツ」(冷静になる、別の方法を考えてみる、違う角度からできごとを見てみる)が挙げられている。

学研(中1：151、中2：91、中3：53)では、「友情、信頼」に関わる読み物資料に続く「クローズアッププラス」のコーナーで友達との関係づくりについて触れている。例えば、学研(中2：91)「自分の気持ち、他者の気持ち」は、自己の防御をより重視し、友達に意見を強要されそうになった際の心を守る合い言葉は、「自分はジブン……」であるとして、①「自分はジブン…」と、自分を守る見えない境界を引いてみる。②それは、自分の話？それとも他者の話？誰の何の話なのか、「区別」して聞く。③「受け入れる」のではなく「受け止める」。自分の感情まで取り込まれない。といったポイントを挙げている。

4. いじめへの対応

光村図書(小4：75)「いじめを見つけたら」では、「もし、「いじめ」を見つけたら、みんなでできること」として「いじめている人に注意する」「いじめられている人によりそう」「しんらいできる大人に相談する」を挙げている。続く小5(26-27)では、いじめを題材とした映画作りを通した「いじめる役の人の気持ち」「いじめられる役の人の気持ち」「周りにいるクラスメート役の人の気持ち」

のロールプレイを紹介している。同様に小6「いじめについて考えよう」(81-82)でも「歌手でタレントの高橋みなみさんは、いじめについて次のようなメッセージを寄せています。」とし、「いじめをしているあなた」「いじめをそばで見ているあなた」「いじめられているあなた」に向けたコメントが書かれている。「いじめられているあなた」は「今の環境でどうすることもできないと思ったら、勇気を出してにげて。」と締めくくられている。

いじめの定義、構造、対策の動向なども具体的に紹介されている。

光村図書(小6:82)の囲みでは「2013年(平成25年)に、「いじめ防止対策推進法」という法律で「いじめ」は、「だれかが、ふだんから関わりのある人に、心理的、物理的にえいきょうをあたえる行為のことで、その行為を受けている人が心身の苦痛を感じているもの」として、

「いじめ」の定義を紹介している。

日本文教出版(小5:30-31)「心のベンチ いじめについて考えよう!」では、いじめの「四層構造」を図示し、「「見て見ぬふりをする子」のことを「傍観者」といいます」とした上で、「傍観者効果」(被害者を助けなくてはいけないじょうきょうであるにも関わらず、周りにいる多くの人が助けられないことがあること。)が起こる理由を挙げている(①自分がしなくても、だれかがきつとやってくれるだろうとか、ほかの人と同じ行動をすることで、自分への責任や自分への非難が少なくなるだろうと思ってしまうから。②助けようとして失敗した場合に、ほかの人から「どうしてそんなことを……。」とか、「なぜうまくできなかったのか。」などと批判されたくないという気持ちがはたらくから。③周りの人が何もしていないのだから、急いで助けることはないだろうと、あやまって判断してしまうから)。同書のキャラクターのココロウが「「傍観者」(見て見ぬふりをする子)が「仲裁者」(間に入って止める子)になることが、いじめをなくすカギです。」として締めくくられている。

日本文教出版(小6:28-29)「心のベンチ いじめについて考えよう!」では、「遊びやじょうだんのつもりでしたことでも、法律では犯罪になることがあります。」として、名誉棄損罪、侮辱罪、暴行罪、脅迫罪、強要罪等を具体例を挙げて紹介している。続けて、「どんな理由、問題があったとしても、それで「人をいじめてよい」ことにはなりません」として、ココロウが「「苦手だな」「短所かも」と思うことでも、人によってとらえ方はちがう」と言及した上で、その捉え方の転換について具体的に紹介されている(おせっかい→世話好き、がんこ→意志が強い、声大きい→自分のことをしっかり表現できる)。「どんなに努力しても、ある人と仲よくなれなかったり、その人を好きになれなかったりすることがあるかもしれません。それでも、同じ社会で、協力して生きていくには、どんなことをたいせつにすればよいでしょうか。考えてみましょう。」と締めくくられている。

5. まとめ

本稿では、2017年改訂学習指導要領に基づいた小・中学校道徳教科書に掲載されている友達との関係づくりに関する直接的メッセージの諸相を概観してきた。

2017年改訂要領に基づく道徳教科書において友達との関係づくりは、1で述べたような社会状況を反映してか、友達の作り方や増やし方、関係維持、いじめへの対応等のさまざまな点においてコツやポイントが紹介され、児童生徒が実践しやすいものとなっている。また、単に友人環境に適応するだけでなく、場合によっては距離を置く途も示されている。

その反面、友人関係上のトラブルは自己のタイプや感情のコントロール、捉え方の転換によって解

決されるという側面が強調されており、集団や学級内での友人関係を俯瞰するような視点にやや欠けていると言えるだろう。この点については、引き続き、読み物資料や特別活動の実践等とも合わせた検討が必要になる。

付記

本稿の執筆にあたり、科研費・基盤研究(c)「社会の形成者としての資質を涵養する特別活動の積極的な生徒指導機能の実証的研究」(中村豊研究代表、18K02548)の助成を受けた。

引用・参考文献

藤野寛(2018)『友情の哲学—緩いつながりの思想—』作品社

水引貴子・歌川光一(2017)「「友達」をめぐる保育内容(人間関係)と生活科、道徳、特別活動のカリキュラムの接続とその課題—2017年改訂学習指導要領・幼稚園教育要領の検討を中心に—」『敬心・研究ジャーナル』1(2)、pp.131-137.

水引貴子・歌川光一・濱野義貴(2018)「友達との関係づくりをめぐる小学校第一学年の顕在的カリキュラムの検討—生活科教科書と道徳の読み物教材の比較から—」『敬心・研究ジャーナル』2(1)、pp.129-134.

文部科学省(2017)『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編』

—————(2017)『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科道徳編』

岡邑衛・歌川光一(2018)「高校生のコミュニケーション能力を育む学級集団に関する一考察—特別活動が目指す「望ましい集団活動」を視野に入れて—」『甲子園大学紀要』45、pp.1-5.

鈴木翔(2015)「友だち」本田由紀編著『現代社会論』有斐閣、pp.79-101

歌川光一(2018)「「友達」をめぐる幼保小連携にむけて—保育内容・生活科・道徳—」現代保育問題研究会編『保育をめぐる諸問題』—藝社、pp.34-45.

歌川光一・岡邑衛(2017)「小中学校における「友達」をめぐる顕在的カリキュラムの検討—道徳の読み物教材に描かれる友情—」『昭和女子大学現代教育研究所紀要』3、pp.75-84.